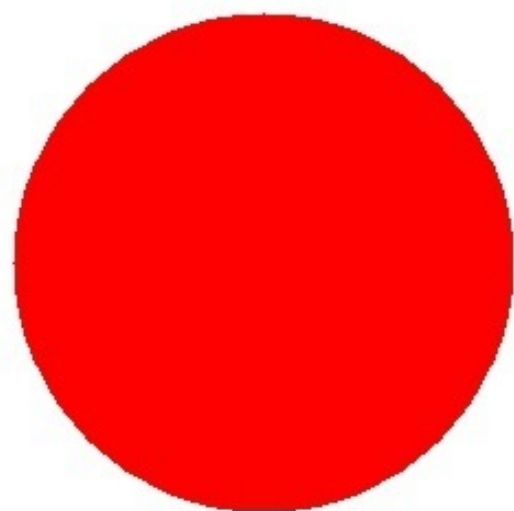
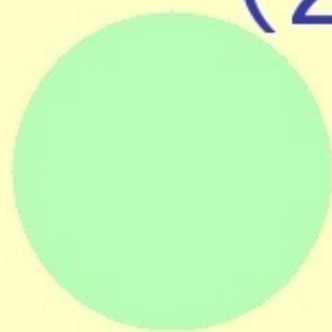


”ワタシ”の名は...

3.11シリーズ |
(2011年初稿)



咲.

.....

建物の外壁には、大きな穴が開いていた。

穴からは、白い気体が、勢いよく噴き出している。

.....大きな揺れがあった。大きな波も押し寄せてきた.....。

”ワタシ”は、同胞たちが集まるはずの部屋へと、建物の内部を、急ぎ進んで行った。

.....

爆風で歪んだその扉は、開けられることを拒み、壁の一部と化していた。

が、壁と扉との境目に出来た、わずかな隙間から”ワタシ”は、身体をねじり込ませ、室内へと入り込んだ。

灯りの消えた室内は、意外にも明るかった。天井に開いたひび割れから、外の光が入り込んでいる。

剥がれ落ちた天井、その瓦礫の下に、押し潰された同胞の、身体の一部が見えた。

動かないモノ、まだ、生きている気配がするモノ.....。

難を逃れた同胞たちは、部屋の片隅に集まり、身を寄せ、遠巻きに、その惨状を見つめている。

不思議な事に、瓦礫のごく近くに倒れた同胞の中には、身体に傷一つ見当たらないにもかかわらず、息絶えているモノが、数多く見受けられた。

.....

ドオオ〜ン！！

再び、大きな爆発が、室内を揺さぶった。

天井の裂け目が大きくなり、落ちてきた瓦礫が、”ワタシ”が入ってきた扉と壁の、わずかな隙間を塞いだ。

出口が.....無くなってしまった.....。

絶望の静寂の中、大きくなった天井の裂け目から、染み出すように、白い気体が入り込んでくる。

高温に熱せられた『ソレ』は、天井伝いに広がり、冷えて水滴となって、同胞たちの頭上に落ちてきた。

.....どれくらいの時間が経ったのか.....。

「カリカリカリ.....」

空腹に耐えかねた同胞が、瓦礫の下から突き出た足を、齧る音だった。

「カリカリ」「ガリガリ」「ボリボリ」「グチュグチュ……」

しだいに音が、増えていく。

空腹を満たし、満足した同胞が、壁を背に座り込んだ”ワタシ”の前に立ち、手に持った『ソレ』を突き出した。

だが、”ワタシ”は知っていた。『ソレ』を口にしたら、どうなるのかを……。

突然、同胞の口から、大量の液体が吹きこぼれた。

倒れこんだその身体は、細かく震え、しかし、しっかりと”ワタシ”を見据えるその目は、こう叫んでいた。

「なぜ、ホントウノコトヲ、オシエテクレナカッタノデスカ……………!？」

ボキッ！！

”ワタシ”は、倒れた同胞の腕をもぎ取った。

瓦礫に染み込んだ『ソレ』に殺されたモノたちの身体よりも、この腕のほうが、いくらかは『ソレ』が、薄められているように思えた。

「カリカリカリ」

”ワタシ”は、同胞の腕を食べ始めた。

……………

「おおお〜〜〜い！！」

遠くから、声と共に、刺激を含んだ匂いが漂ってくる。

そういえば、この建物は、建設当初から常に、色んな匂いに取り囲まれていた。

ハンバーガー、フィッシュ&チップス。最近は、高級なワインの香りもしていたようだ。

”ワタシ”をサカナに、そいつらは、いつも宴会をやっていた。

……食ってやる……。

”ワタシ”は、近付いてくる足音に、息を吸い込んだ。

今度こそ、食ってやる……。口の端から、苦い液体が滲み出してくる。

……いや……、この弱った身体では、やっぱり食われるのは”ワタシ”か……………。

「ここだああ〜」

死なばもろとも、”ワタシ”は声を上げた。

「ここだ！！」

……”ワタシ”の名は……………」

補足：“ワタシ”の名は... (2011年初稿)

『“ワタシ”の名は... (2011年初稿)』は、行間の変更以外、某ブログにアップした当時の原稿のままで、公開しています。

「小説」という形では、初めて書いた作品...とはいえ、独りよがりと説明不足の感は、否めません。

脱稿から数年経ったいま、読み返してみて、「これって...どんな意味だっけ？何の比喻で、この表現を使ったのか...？」と、自分自身解らない部分も...現在、何箇所か存在します。

そんなわけで、初公開当時の、読者からのコメントの一部...と、その返答を、下記にまとめてみました。ほんの少しでも、本作品の理解の助けとなれば幸いです。

.....

☆コメント：1

もしかして バ○○ン の話ですか？ 違うのかな？

なんだか 原発事故後に読むと 余計シリアスに感じますね...

毒となるものの恐ろしさを 実感いたしました。

★コメント：1 への私からの返答

お！○○さん、鋭い！！

「この文章を視覚化するなら、某建物内に住む、ゴキブリ目線で……」と、考えながら書いていましたので、ある意味、正解です～！

“ワタシ”の名は、「原発利権」でも「電力利権」でも「日本の原発」でも、「バルサ○」...それに追われた「ゴキブリ」でも……、お読みになった人の、受け取り方次第……だと思っています。ラスト辺りの「ハンバーガーうんぬん」は、角が立つなあ～と思って、ワザとぼかして書いています...ので、その「物」が象徴する国の名を、そこに当てはめてみて下さい。

.....

☆コメント：2

前のコメント（への返答）を見てやっと理解できました～。

たくさんの解釈があるんですね～。

★コメント：2 への私からの返答

判り辛い…伝わらない…。「造り手の自己満足」でしかない…かもしれない作品は、読んでいて

辛いということ…。

重々承知してはいましたが、今回は、それを意図的にやってみました。

この作品は、自分の非力さを、実感するために書き上げた…のかもしれませんが。

日々侵されていく命を前に、何もできない歯痒さ。以前と何も、変わらないかのような、毎日の繰り返し。

…しかし、確実に「そこにある」危機…。

そんな「焦燥感」が伝われば、この作品を書き上げた意味も、出てくるのかなあ……と、思っています。

2011年9月2日記入

2011年8月27日 第一稿（旧著者名：夏樹）
2013年7月27日 第一稿〔ママ〕（著者名：咲.）

”ワタシ”の名は... （2011年初稿）

<http://p.booklog.jp/book/74797>

著者：咲.

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/saki62e81/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/74797>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/74797>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ